

事務局 〒028-3309紫波町日詰駅前1-10-2赤石公民館内 tel 019-676-3999 会長 高橋敬明 tel 090-3125-3776

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレット14頁 —

3 比爪-奥州藤原氏第二の拠点- ③ 外縁遺跡

比爪中核部から視認できる東と西の山列には、比爪を取り囲むような形で経塚、寺院などの宗教施設が存在します。これらは、比爪の外縁部とも言える位置で、比爪の構成要素と位置付けられます。

《弥勒地経塚(紫波町土館字弥勒地(1))》

平成24年10月に岩手県立博物館考古部門によって内容確認調査がおこなわれました。遺跡は、石塚が築かれる頂部と、切り土によって造成された平場の下段部から構成されます。頂部の石塚は形状が明瞭で規模が大型の5基と、規模が小型で形状が不明瞭な2基の合計7基が確認されました。これらは2列に配置され、南側の列は4基、北側の列が3基からなっています。塚が築かれた頂部は東西に細長い尾根状の地形で、塚はその中央部にまとまっており、その東側と西側にはそれぞれ平場が造成されています。塚はいずれも中央部が掘り込まれており、盗掘が行われた痕跡がみられました。塚の表面から、常滑産広口壺片5片、常滑産三筋壺片1片、古瀬戸瓶子片1片が出土しました。塚に埋葬されていたものを盗掘者が掘り出し、周辺に捨てていった状況と推測されます。

《《《 6～7月行事予定のお知らせ 》》》

6月11日 (日曜日)	第18回 定期講演会	時刻/午後1時30分から午後3時30分まで (受付開始時刻:午後1時) 会場/JR日詰駅前 紫波町赤石公民館 講師/内城弘隆氏(どっこ舎主宰) 演題/樋爪の終焉と斯波氏の時代 — 南北朝との関連 — 参加料/一人 500円(会員200円) 当日受付へ 参加申込/6月5日までにFAXで赤石公民館 019-676-3999へ送信 お問合せ/090-3125-3776(高橋)
6月25日 (日曜日)	赤石公民館比爪館入門講座 はじめての 比爪館さんぽ ① 〔協力事業〕	集合時刻 午前9時(終了予定:正午) 集合場所 紫波町南日詰 箱清水公民館 実地見学 赤石小学校周辺(遺構・遺物出土場所) 参加費 100円(保険料他) ※ 詳細は赤石公民館676-3999へ
7月19日 (水曜日)	第82回 月例発表会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者: 金濱興一 テーマ: ひづめ 2 発表者: 宇部真澄(三島黎子) テーマ: 未定
7月30日 (日曜日)	赤石公民館比爪館入門講座 はじめての 比爪館さんぽ ② 〔協力事業〕	集合時刻 午前9時(終了予定:正午) 集合場所 紫波町南日詰 箱清水公民館 実地見学 五郎沼一周(経塚跡、石卒都婆群他) 参加費 100円(保険料他) ※ 詳細は赤石公民館676-3999へ

比爪館跡 第30次発掘調査報告書 <紫波町教育委員会(平成25年3月発行)>

【比爪館遺跡 第30次発掘調査(2)】 ～抜粋～

3 調査の成果 —(2)中世の遺構・(3)出土遺物 (省略)— (4) まとめ

比爪館跡は、第29次調査Ⅲ区(平成24年度)まで実施してきた。第30次調査は、本遺跡の南端に当たる場所で、周辺の地形は微高地に位置する。

今回検出された遺構は、竪穴住居跡1基、土塁状マウンド1基、土塁状遺構1基、溝跡1条池跡(推定)1面、土坑跡2基、柱穴29口を検出した。遺物は、あかやき土器坏・土師器甕がコンテナ1箱、かわらけコンテナ10箱、土製品1点、鉄製品1点などが出土した。

時期は、出土遺物の形態状況から、竪穴住居跡、柱穴26口は平安時代(10世紀頃)、土塁状遺構、土塁状マウンド、溝跡、柱穴4口等は、平安時代中期～末期(12世紀頃)に属すると思われる。

【竪穴住居跡】

平安時代竪穴住居跡。遺構は調査区南側に 2/3 残存し、カマドは調査区外で検出できなかったが、南カマドと推測される。堆積状況は22層に大別される。中央部下層付近に地山ブロック大が混入する人為堆積、上層は自然堆積である。A2層には、粉状パミス(十和田a火山灰)が混入する。竪穴住居跡の床面南辺から、あかやき土器坏・甕と土師器甕がまとまって出土し、床面中央部は固くしまっていた。

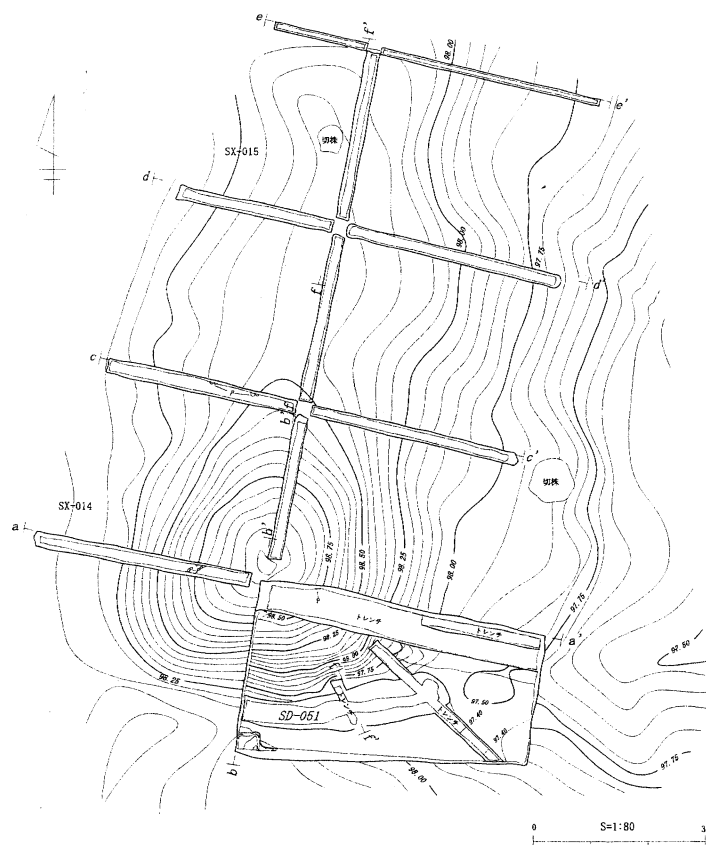
竪穴住居跡の上縁から、垂木穴と思われる柱穴が10口検出された。多くの竪穴住居跡の調査例では、垂木穴は後世の削平や攪乱で検出されないことが多いが、今調査では、残存状況が良く貴重な資料が得られた。

【土塁状マウンド】

土塁状マウンドを調査するにあたっては、地権者の意向を受けて、遺構保存を最優先に調査を進めた。現代の表土(マウンドの 1/4 南東部)を除去し、その位置の東西に幅0.5mのトレンチを入れて、内部の様子と土層観察を実施した。基底部は、堆積土Ⅱ層(11～12世紀前半)と堆積土Ⅲa層・Ⅲb層(10世紀後半以前)の旧表土を掘り込んで構築されていることがわかった。

埋土堆積状況では、掘り込み面はほぼ平行に軽く版築され、徐々にマウンドの基底部の中心に向けて、約24度の傾斜で版築しながら構築されていた。頂頭部の一部(縦穴掘り込み)には盗掘の痕跡填、窯跡など様々な憶測を呼んでいたことから、最小限の内容確認に留め、慎重に精査を実施した。

その結果、目的は不明だが土塁の上に版築しながら構築されたマウンドであることが判明した。



第8図 土塁状マウンド、土塁状遺構トレンチ、溝跡 全体図 (1:80)